

横浜市社会福祉協議会
児童福祉部会

退所時・退所後 アフターケア 支援金事業

令和3年度報告

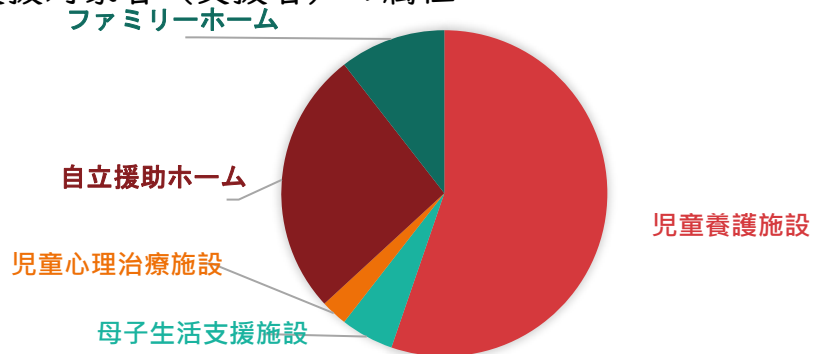
令和4年3月 横浜市社会福祉協議会
施設福祉課・ヨコ寄付推進担当



集計結果

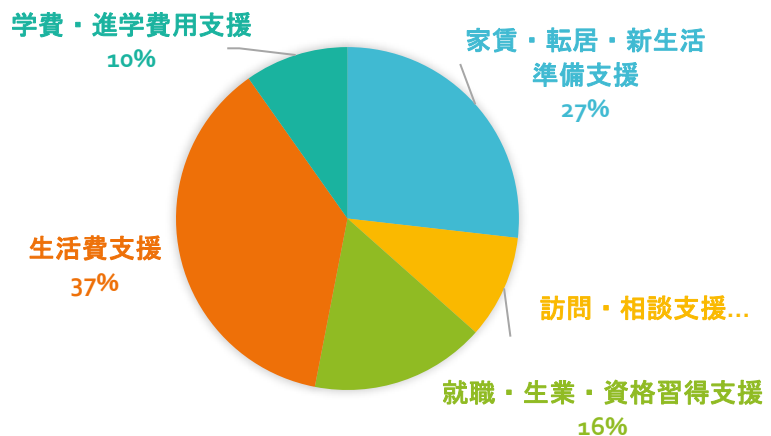
支援総額 8,940,000円
(当初予定 8,000,000円)

支援対象者（支援者）の属性



最も多かったのが児童養護施設。対象者数の違いは施設数や定員、これまでの支援者数による違いと思われる。

支援の内容



最も多い生活費支援には、退所後にコロナ禍となったため、アルバイト収入が減った影響が多く含まれる。当初想定していた退所時の転居に伴う諸経費の割合はそれほど大きくないものの、他支援が届きにくい面もあり、一定程度の必要性を感じる。また、資格を取得することでスキルアップを目指すなど、自立に向けた支援にも活用されている。

[参考:令和3年度事業概要]

【支援対象】部会員のうち、以下のすべてに該当する施設等を対象とする。

- (1) 対象は、児童養護施設、自立援助ホーム、ファミリーホーム、児童自立支援施設、母子生活支援施設、児童心理治療施設
- (2) アフターケアを行うもののうち、他助成金等の対象にならない支援
- (3) 退所生の自立支援につながるもの(恒常的な支援ではなく、一時的なもの)

【支援金額】上限30万円(1万円以上、1万円単位で申請) ※予算上限800万円を予定

【申請期間・報告時期】第Ⅰ期 令和3年5月10日(月)~5月31日(月) 第Ⅱ期 令和3年7月5日(月)~7月26日(月)

支援につながった 退所生・ 退所予定 生の“声”



ファミリーホームの様子

《就職のため資格取得講座の受講と就活用スーツを購入》

- ・目標を持って生活に前向きになりました。スーツが購入できたことで、就職活動時の職種の幅も広がり希望が持てるようになりました。心から感謝申し上げます。

《諸事情により急遽転居をすることになり転居費用に活用》

- ・急な転居に伴い費用を支出いただき、感謝申し上げます。

《医療的支援が必要な状況のため定期的に連絡を取り支援》

- ・お話を聞いた当初は私などが頂いて良いものかと悩みましたが、もう少し頑張りたいと思い受けさせていただきました。支援してくださった気持ちを無駄にしない為にも、今後前向きに頑張っていこうと思います。このような機会を私にくださって、ありがとうございました。

《大学在学中。アルバイトができず生活苦になり生活費を補填》

- ・コロナ禍となり、貯蓄を削りながら生活のやりくりをしていましたので、この度の援助に誠に感謝しております。ご厚意も伝わり、心もとない心境でしたが、胸が温まる思いになりました。

《専門学校への進学を希望。学校見学や入試費用に活用》

- ・ご支援いただいたことで、複数の学校への見学が可能となり、選択肢が広がりました。ありがとうございました。

《短大進学予定、新生活に向けた準備に活用》

- ・気持ちに少し余裕を持つ機会になり「やったー」と言って笑顔を見せ嬉しそうでした

支援につ ながった 退所生・ 退所予定 生の“声”

《制度利用ができず運転免許を取得できていなかったが、就職活動のため運転免許を取得》

- ・ 運転免許は仕事や生活の場面で役立つので助かります。人の役に立てる社会人を目指してこれからも頑張っていこうと思います。ありがとうございました。

《大学進学を希望。オープンキャンパス・受験費用に活用》

- ・ お陰様で希望していた大学へ進学を果たすことができました。将来のことで不安はありますが、応援いただいたことを忘れることなく自身の夢の実現へ向けて努力したいと思います。

《大学在学中。学校で使用するパソコンの購入などに活用》

- ・ この度はありがとうございました。支援金を利用して頂き大学生活を順調に送れています。本当にありがとうございました。

《軽度の障害があり就労に向けた支援に活用》

- ・ 安心した表情をしていました。「〇ヶ月分あるね」と嬉しそうに自分で計算していました。

《不登校から認定試験を合格、専門学校進学し寮生活へ》

- ・ 「うれしい、寮費何ヶ月分になるの？」と具体的に今後を考える発言もありました。気持ちが少し楽になれた様子でした。



児童養護施設 旭児童ホーム
スタッフの皆さん

支援者 (施設スタッフ) の声

- 困難が続く人生でも応援してくださる方がいらっしゃることを伝え続けていきたい（ファミリーホーム）
- この支援で継続的・安定的にアフターケアを行えることになりました。今後も近くに存在し続け、関わりながら背中を押してあげたい（自立援助ホーム）
- 夢をかなえるために試行錯誤しているときに、理解者として寄り添い応援し続けたい（自立援助ホーム）
- ホームレスになる寸前でした。支援頂けたお陰で何とか継続して支援することができました（自立援助ホーム）
- 今後の見通しを持って支援をすることができました。退所生には金銭面の支援が難しく、制度に頼らざるを得なかったのですが、今回このようなチャンスをいただき、子どもたちにとってより良い環境を作ることができました（母子生活支援施設）
- 寄付の力で一人の若者の生活が安定しました。感謝しかありません。今後とも社会的養護、児童養護施設にお力添えをいただけると嬉しいです（児童養護施設）
- 人間不信が強いところもあり、職員のアフターケアにおいても苦慮していた。今回の支援金が改めて施設につながるきっかけになりました（児童養護施設）



児童福祉施設部会長・副部会長

今後に向けて

今年度の振り返り

横浜幸銀信用組合さま、横浜ベイシェラトンホテルさま、また個人の方からご寄付を頂いたことを受け、これまで資金的に難しく支援が困難だった「退所時・退所生へのアフターケア」に対し取り組むことができました。

これまで退所後の支援は、横浜市が実施する「アフターケア支援事業」を活用するしかなく、退所生の特性・個性を生かしつつ継続した支援ができていない面もあり、時折挫折をする退所生も見受けられました。

施設側も、出来る限り退所後の支援を行っていますが、特に資金面での支援が難しく、思うようにできていなかった部分があり、今回の事業展開に至りました。

児童福祉部会としてはこの支援金を活用しつつ、引き続き寄り添いながら多くの退所生を支援できるよう継続していきます。

次年度の実施に向けて

①支援対象を拡大

これまでの「児童養護施設」などに新たに「養育里親」を追加し、対象年齢を23歳までに引き上げ

②申請時期を拡大

必要時に支援が行えるよう、四半期ごとに申請時期を追加

第Ⅰ期 5月頃、第Ⅱ期7月頃に加え、
第Ⅲ期11月頃、第Ⅳ期1月頃

※予算残の場合のみ第Ⅱ期以降の募集を実施

などを支援の拡大を想定し、「退所時・退所後アフターケア支援金事業」を継続できるよう、現在協議中です。